

## 【原著】

## 娘の出産に対する母親の期待意識の要因分析

中島通子<sup>1</sup>、鈴木江三子<sup>2</sup><sup>1</sup> 新潟県立看護大学<sup>2</sup> 川崎医療福祉大学

(受付：平成 22 年 12 月 3 日)

(受理：平成 22 年 12 月 13 日)

## 要 旨

本研究は、娘の出産に対する母親の期待意識を構成する要因を明らかにするものである。方法は、自記式質問紙調査を実施し、161 名のデータ（回収率 48.5%）をもとに主因子法、バリマックス回転による因子分析を実施した。結果、第 1 因子「出産への支援」11 項目、第 2 因子「子どもの価値」（10 項目）、第 3 因子「次世代継承の意味」（7 項目）、第 4 因子「嫁ぎ先の繁栄」（4 項目）の計 4 因子 32 項目が抽出された。なかでも、第 1 因子である「出産への支援」が最も高い値を示した。Cronbach の  $\alpha$  係数は第 1 因子 0.892、第 2 因子 0.864、第 3 因子 0.870、第 4 因子 0.830 であり、これを、娘の出産に対する母親の期待意識要因とした。また、期待意識の中で「出産への支援」が最も高い値を示した。この要因から、子どもを授からない女性にとり、母親からの子を授かる事への重圧や威圧などが存在することが示唆された。

**キーワード：** 出産期待意識、因子分析、母親、要因

## 緒 言

従来、結婚し夫婦となると次世代をつくるという機能は当然と扱われてきた。生殖が結婚の目的や必然であった状況が、近年は生殖医療の発展に伴い、可能性であり、不可欠なものではないといった意識に変わりつつある<sup>1)</sup>。しかし、家族に起こる変化として男女が結婚することは一人前として扱われ、其れに留まらず親であることは一人前として扱われることが日本の文化には根強く存在している<sup>2)</sup>。このように、結婚し、子どもを授かる事に対する我々社会の一般的概念は、当然の事と捉えていることが多い<sup>3)</sup>。特に、親や親族らから受ける妊娠への期待が重圧となって、不妊治療の妻の約 7 割は子どもが産めないことに引け目や劣等感を抱き、子どもを産むことへの執着から逃れることができないと指摘されている<sup>4)</sup>。そこで、本研究では、妊娠中の娘を持つ母親を対象に、娘の出産に対する出産期待意識を明らかにすることを目的とした。そして、母親からのどのような期待意識

が娘である女性達に出産に対する重圧としてのストレスを感じさせているのかを考察した。

## 方 法

1. 調査期間：平成 22 年 7 月～同年 9 月
2. 調査対象：新潟県、長野県、愛知県、岡山県内にある産婦人科病院および助産院において妊婦健康診査を受けている妊婦の母親 161 名
3. 調査方法：調査協力施設長に連絡し研究目的等について口頭と文書にて説明し、同意書を取り交わした。また、調査票は、担当看護師から妊婦健診に来院した妊婦に対して、本研究の主旨を説明し、同意後に調査票と返信用封筒を手渡し、母親からの返信をもって同意とした。
4. 分析方法：因子分析、対象者の属性と期待意識の各因子得点の比較検討は、一元配置分散分析と t 検定を用いた。統計学的有意水準を 5% とした。データ解析には統計ソフト SPSS17.0J を用いた。

5. 倫理的配慮：本調査は、新潟県立看護大学倫理委員会（承認番号 10-009）の承認を得た。対象となる妊婦と母親へは、①調査に協力しなくても診察に不利益はないこと、②調査内容は意見の良し悪しを判断するものではないこと、③調査記録は厳重に保管し個人名が特定される形で公表しないこと、④調査終了後はデータを速やかに破棄すること、⑤いつでも調査協力の中止ができることである。また、調査は無記名で行い匿名性が保持されることを遵守した。

### 結 果

1. 調査票は、90 の質問項目で作成した。妊婦健康診査目的で来院した妊婦を通して 340 部母親へ配布した。母親からは、郵送された調査票をもって同意とした。回収数 165 部（回収率 48.5%）、有効回答 161 部（有効回答率 97.5%）であった。
2. 母親の平均年齢は、56.7 歳 ± 5.19 歳、初孫を持つことになる者は 87 人、初孫以外は 74 人であった。娘の平均年齢は 29.31 歳 ± 4.1 歳であった。
3. 娘の出産に対する期待意識の構成要因の分析は、因子分析では主因子法、バリマックス回転を行い、共通性 0.25 以上、因子負荷量 0.43 以上の項目を選定した。第 1 因子は「出産への支援」（11 項目）、第 2 因子は「子どもの価値」（10 項目）、第 3 因子は「次世代継承の意味」（7 項目）、第 4 因子は「嫁ぎ先の繁栄」（4 項目）の計 32 項目が抽出された。クロンバックの  $\alpha$  係数は第 1 因子 0.892、第 2 因子 0.864、第 3 因子 0.870、第 4 因子 0.830 であり、累積寄与率は 48.77 であった。各因子の平均総和得点を見ると第 1 因子は 3.55、第 2 因子 3.15、第 3 因子 2.66、第 4 因子 2.99 であった。以上母親がもつ娘の出産に対する期待意識の中で最も高いのは第 1 因子の「出産への支援」であった。これを母親がもつ娘の出産に対する期待意識を構成する因子とした（表 1）。
4. 母親の属性と出産期待意識との関連は、4 つの因子を、母親の年齢、孫の順位毎で比較検討した。その結果、両者に有意差はみられなかった。つまり、母親は母親自身の年齢や、外孫、内孫の別に関係なく、娘の出産に対して期待意識を同じように持っていることが明らかになった。以上より、妊婦の母親は、母親自身の年齢や孫の出生順位、外孫、内孫に関係なく、娘の出産に期待意識を持つことが分かった。また、出産に対する期待意識を構成する因子の中で「出産への支援」が最も高い値を示すことが明らかとなった。

### 考 察

母親がもつ娘の出産に対する期待意識の要因は、第 1 因子「出産への支援」（11 項目）、第 2 因子「子どもの価値」（10 項目）、第 3 因子「次世代継承の意味」（7 項目）、第 4 因子「嫁ぎ先の繁栄」（4 項目）の、4 つの因子から構成されているという解釈が妥当であると考えられる。なかでも、第 1 因子である「出産への支援」は、4 因子のなかでも高い値を示し、娘の出産に対する期待意識の中でも特徴的であった。これは、外孫、内孫の別に関係なく持っている関心事であることから、実母、義母共に、娘または嫁の妊娠については常に期待しているといえる。

このことが、結婚後はとかく婚家の跡継ぎを設けることに話題が集中し、妊娠しない場合は、女性を不妊治療へ導引する要因にもなっていると考えられる。

この 20-30 年間で女性の役割に関する価値観は多様化し、女性はアイデンティティのなかに伝統的な女性役割（妻、母親役割）と家庭外の役割（職業）という複数の基盤を持つようになった<sup>5)</sup>。そしてこれは、多様な生き方ができる時代になったとも言える。しかしながら、実際は周囲の重圧から子どもを産んで母親になることが、女性の存在意義であるという価値観は根強い。それは、結果の如く、子どもを産むことは社会的に認められることや女性として認められる、家の存続には必要である、さらに母親は、家族の継承に責任があるといった項目からもその傾向は推察することができる。母親として娘が嫁、妻、女性として子どもを持つことは重要

表 1 母親がもつ娘の出産に対する期待意識 (32 項目) n=161

因子名 a 係数	項目	因子				共通性
		1	2	3	4	
出産への 支援 a = .892	3 娘の妊娠についての困りごとは母親として精神的支援をする	0.824	0.069	-0.187	0.080	0.725
	1 娘の妊娠についての困りごとは出来る限り母親として支援する	0.769	0.115	-0.115	-0.012	0.618
	5 娘の妊娠についての困りごとは母親として経験したことで支援する	0.751	0.069	-0.046	0.045	0.572
	7 娘の妊娠についての困りごとは母親として相談を受ける	0.746	0.043	0.006	0.040	0.560
	6 娘の妊娠についての困りごとは母親として情報提供する	0.704	0.111	0.094	0.031	0.518
	2 娘の妊娠についての困りごとは母親として時間・物の支援をする	0.682	0.126	-0.021	0.126	0.497
	22 娘が困っている時には、どんな状況であろうとも助ける	0.665	0.136	0.238	-0.145	0.538
	23 母親の利益より娘の利益を優先して手助する	0.597	0.094	0.275	-0.142	0.461
	4 娘の妊娠についての困りごとは母親として経済的支援をする	0.549	0.163	0.037	0.062	0.334
	21 娘に頼まれたことを実母は可能なことは何でもする	0.537	0.139	0.144	-0.009	0.328
74 娘とのコミュニケーションは大切である	0.467	0.301	-0.115	0.085	0.329	
子どもの 価値 a = .864	39 子どもは生き甲斐である	0.236	0.796	0.107	-0.114	0.714
	40 子どもは心の支えだ	0.247	0.765	0.019	-0.051	0.649
	42 年をとって子どもがいるところ強い	0.278	0.654	0.013	0.178	0.536
	44 子どもは自分の生命を伝えていくものだ	0.119	0.617	0.061	0.234	0.454
	41 自分の中で最も重要なのは子どもだ	0.104	0.566	0.292	-0.150	0.439
	46 子どもは自分がこの世の存在した証だと思ふ	0.100	0.538	0.205	0.135	0.359
	43 子ども無しの人生は空しい	0.047	0.528	0.158	0.163	0.332
	45 子どもは自分の分身だと思ふ	0.164	0.496	0.373	0.073	0.418
	90 孫ができることは母親として安心する	0.303	0.472	0.198	0.194	0.391
	50 次の社会を担う世代をつくる為に子どもをつくることは大切である	-0.026	0.436	0.120	0.231	0.259
次世代継 承の意味 a = .870	89 娘は子どもができて女性として認められる	0.059	0.104	0.865	0.128	0.780
	88 娘は子どもができて嫁として認められる	0.082	0.092	0.850	0.184	0.772
	52 親になって初めて社会的に認められる	-0.057	0.185	0.590	0.250	0.449
	86 孫の誕生は自分の分身ができることである	0.027	0.356	0.570	0.181	0.485
	30 母親は家族の継承に責任がある	0.022	0.253	0.560	0.173	0.408
	51 子どもは家の存続(家の名前や墓を守る)のために必要だ	-0.151	0.271	0.479	0.210	0.370
	87 孫の誕生は私の生活の支えとなる	0.160	0.466	0.477	0.084	0.477
嫁ぎ先の 繁栄 a = .830	71 結婚は嫁ぎ先の人間になるということである	0.011	0.148	0.369	0.722	0.679
	72 嫁は妊娠したことで嫁ぎ先を繁栄させる	0.004	0.247	0.389	0.667	0.658
	73 嫁は嫁ぎ先の血筋を継承する	0.112	0.186	0.301	0.627	0.531
	70 私は娘の嫁ぎ先を優先して行動する	0.040	0.057	0.294	0.469	0.311
	固有値	26.479	15.424	7.447	5.013	
	寄与率	16.320	13.480	12.398	6.578	
	累積寄与率	16.320	29.801	42.199	48.777	

因子抽出法：主因子法

回転法：Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

であると考えていることがわかる。柘植<sup>6)</sup>は、女性は子どもを産んで育てるのが重要な役割であり、子どもを産めない女性はその社会規範から逸脱した「かわいそうな人」と認識されることが多いと述べる。この様に妊娠、出産といった経験をしている母親が、子どもを授かることの難しさや寄せられる期待を感じて来たことを、娘にも同様に感じさせているとも考えられる。

第 4 因子に、娘の嫁ぎ先を優先して行動する、さらに第 1 因子には娘の妊娠についての困りごとや頼まれたことは可能なことは何でもするといった支援と出産への期待項目がある。子どもを持つことに対し、娘の出生家族として境界 (boundary) を意識していながらも可能な限り支

援を提供したい決意が解る。これが娘の妊娠出産に意見し、介入することも推察できる。

今後、看護職は、母親の出産に対する期待意識が、不妊女性の心理的ストレスになっていないか、その可能性についても学習し、不妊治療を含む子どもを授かることへの理解が得られるような家族支援が必要であると考ええる。

### 結 論

本研究の結果、以下のことが明らかとなった。

- ① 母親の娘の出産に対する期待意識は、因子分析の結果「出産への支援」「子どもの価値」「次世代継承の意味」「嫁ぎ先の繁栄」の 4 つの因子によって構成されていた。
- ② 「出産への支援」因子は、母親の出産に対す

- る期待意識で最も高かった。  
 ③娘の出産に対する期待意識は、母親の年齢や孫の順位に影響しなかった。

### 謝 辞

本研究の調査に協力いただきました、荒川大桃エンゼルマザークリニック、上田市産院、かねこ助産院、小石マタニティ & チルドレンクリニック院長および師長、スタッフの皆様には感謝致します。

### 文 献

- 1) 柏木恵子：子どもという価値. 中公新書 東京 pp68-74 2005
- 2) 中山まき子：第 2 部女性のからだの現代史 - 産む・産まない選択をめぐる <授かる> から <つくる> へという思い込み, 母性から次世代育成力へ産み育てる社会のために. 新曜社 東京 pp191-196 1991

- 3) 柏木恵子：子どもという価値. 中公新書 東京 p72 2005
- 4) 芦野由利子：リプロダクティブ・ヘルス/ライツ概論. ペリネイタルケア 第 17 巻 夏季増刊：10-22 1998
- 5) 岩井紀子、宍戸邦章：「21 世紀初頭における日本人の意識と行動の変化」谷岡一郎、仁田道夫、岩井紀子編『日本人の意識と行動 日本版総合的社会調査 JGSS による分析』. 東京大学出版会 東京 pp19-43 2008
- 6) 柘植あづみ：文化としての生殖技術. 松籟社 京都 p238 1999

連絡先：中島通子  
 新潟県立看護大学  
 〒 943-0147 新潟県上越市新南町 240 番地  
 TEL: 025-526-2811  
 E-mail: tusan@niigata-cn.ac.jp

## Factor Analysis of the Expectations of Mothers Regarding Their Daughter's Parturition

Michiko NAKASHIMA<sup>1</sup>, Emiko SUZUI<sup>2</sup>

<sup>1</sup>Niigata College of Nursing

<sup>2</sup>Kawasaki University of Medical Welfare

### Summary

This research discloses a factor analysis addressing the expectations of mothers with respect to their daughter's parturition. The method used was to conduct a paper-based self-reporting survey, and to perform a factor analysis using the principal factor method with varimax rotation, based on data from 161 persons (collection rate of 48.5%). As a result, 4 factors consisting of 32 items were extracted as follows: Factor 1 with 11 items (support for parturition), Factor 2 with 10 items (value of children), Factor 3 with 7 items (meaning of inheritance for future generations) and Factor 4 with 4 items (prosperity of marriage partners). Within these, Factor 1 (support for parturition) showed the highest value. The Cronbach's  $\alpha$  indices were Factor 1: 0.892, Factor 2: 0.864, Factor 3: 0.870, and Factor 4: 0.830, and these were established as factors for the expectations of mothers regarding their daughter's parturition. Moreover, within the expectations, "support for parturition" showed the highest value. From these factors, it is suggested that for women who do not bear children, pressure and coercion from the mother to have a child tend to exist. (Med Biol **155**: 89-93 2011)

**Key words:** parturition expectations, factor analysis, mother, factors

Correspondence address: Michiko NAKASHIMA  
Niigata college of Nursing  
〒 943-0147 Shin-nan-cho 240, Jyoetsu, Niigata Pre  
Tel: 025-526-2811  
Email: tusan@niigata-cn.ac.jp

